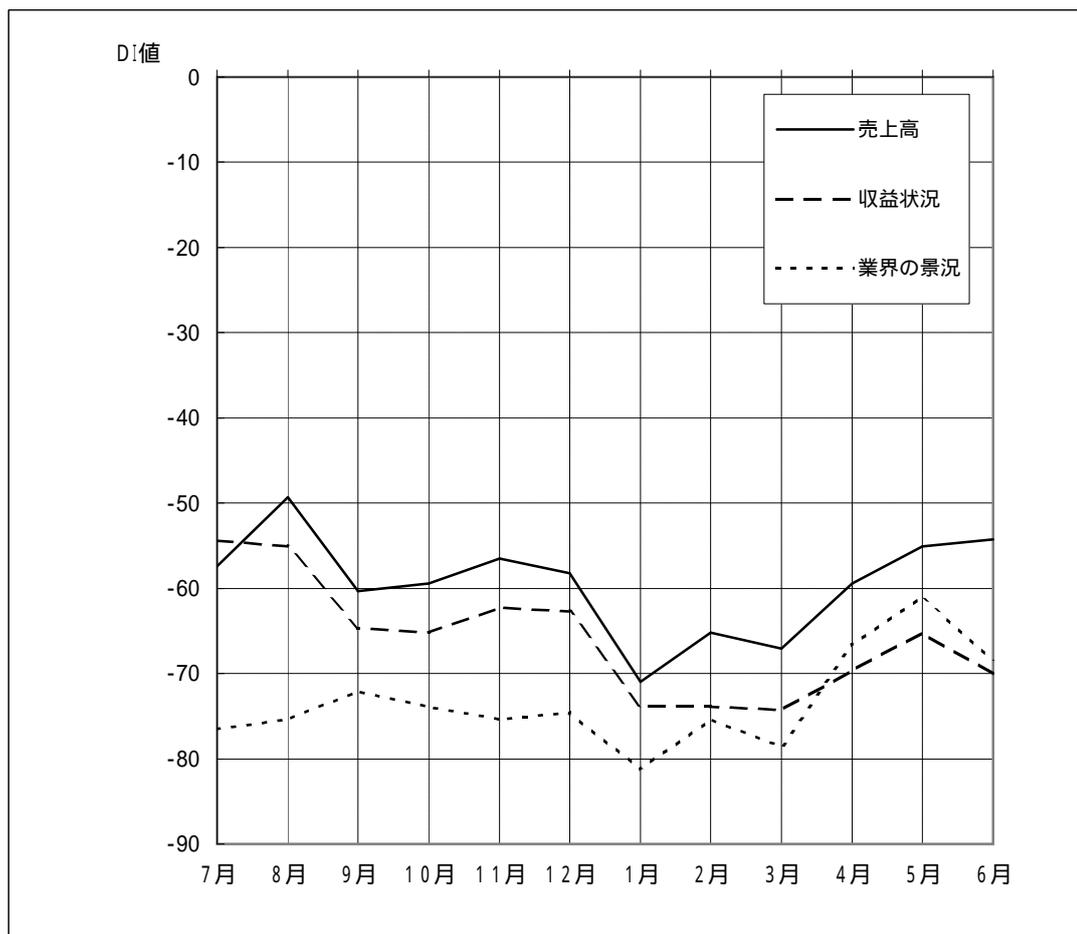


## 業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成13年7月～平成14年6月

単位:ポイント



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
売上高	-57.4	-49.3	-60.3	-59.4	-56.5	-58.2	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3
収益状況	-54.4	-55.1	-64.7	-65.2	-62.3	-62.7	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0
業界の景況	-76.5	-75.4	-72.1	-73.9	-75.4	-74.6	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6

6月のDI値をみると、4・5月と2ヶ月連続して3項目全てが改善されていたものが、今月は「売上高」のみの改善となった。「景況」は前月より7.7ポイントのマイナスと-60%台を維持したものの、3月以来の-70%台に近づいた。また、「売上高」は0.8ポイントと僅かではあるが改善され、3ヶ月連続の改善となったが、「収益状況」は4.8ポイントのマイナスと3月以来の-70%台になるなど、上向きかけた景況感も下降気味と、全体としての中小企業の業況は、依然として低水準で推移しており、厳しい状況下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、不変とする業種が少し減った中で、「一般機器」「木材・木製品」で好転がみられたが、「鉄鋼・金属」「食料品」で悪化の割合が高く、また、非製造業は、不変とする業種が減った中で、「商店街」で一部好転がみられたものの、総体的には製造業より悪化の割合が高く、「鉱業」「卸売業」「商店街」「サービス業」「建設業」でその傾向が顕著である。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「木材・木製品」を含めた製造業では、受注の減少や受注単価の下落等による売上高の減少等の他一部輸出の好調から受注の引き合いが少し出てきた報告、「商店街」「卸・小売業」「サービス業」を含めた非製造業では、消費の低迷及び売上高の減少や収益の悪化等の報告の中で、一部の商店街では客足が戻ったと言う明るい話題も報告されたが、サッカーのワールドカップ開催も期待するほどの結果にならなかった等の実情も報告されるなど、先行きの不透明感を含め厳しい現況が窺われる。